

彼らの現在——彼の恵みの中でキリストを子として享受し、経験する

聖書：ヘブル 4:16. II コリント 1:12, 10:13-14, 12:7-10. 13:3-4, 14

- I. 恵みとは、三一の神の具体化であるキリストがその霊としてわたしたちの存在の中へと伝達され、わたしたちの経験と享受となるということです——ヨハネ1:16-17. ヘブル4:16. II コリント1:12. 13:14. ローマ5:17, 21. I コリント15:10. 参照、ガラテヤ2:20:
- A. 命の木を食べること、すなわち、キリストを命の供給として享受することは、召会生活における主要な事柄であるべきです。わたしたちが彼を享受すればするほど、ますますイエスの純粋な証しのために、召会生活の内容が豊かになります——啓 2:7。
- B. わたしたちのクリスチャン生活の目標は、キリストを最高に享受して、得ることです。ピリピ人への手紙における「一つの事」とは、キリストを追い求めて彼を得、彼を捕らえ、彼を所有し、彼を享受することです—— 1:20-21. 2:2, 5. 3:7-14. 4:13 :
1. 「どうかあなたがたは同じ事を思い、同じ愛を持ち、魂において結合され、『一つの事』を思って、わたしの喜びが満ちるようにしてください」—— 2:2。
 2. 「わたしは、すでに獲得したとか、すでに完成されているとか言うのではありません。わたしは、それを捕らえようと追い求めているのですが、それはわたしが、キリスト・イエスによって捕らえられているからです。兄弟たちよ、わたしはまだ自分自身、捕らえたとは思っていません。ただ『一つの事』、すなわち、後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばしつつ、キリスト・イエスの中でわたしを上を召してくださった神の賞を得るために、目標に向かって追い求めています」—— 3:12-14。
 3. 「マルタよ、マルタよ、あなたは多くの事で思い煩い、心配している。しかし、無くてならないものは、『ただ一つ』である。マリヤはその良い分を選んだのだ。それを、彼女から取り上げてはならない」。——ルカ 10:41 後半-42。
 4. 「わたしは『一つの事』をエホバに願いました。わたしはそれだけを求めます。わたしの命の日の限り、エホバの家に住んで、エホバの麗しさを見つめ、彼の宮で尋ね求めることを」——詩 27:4。
- C. キリストを最高に享受し、得るために、わたしたちは主を極みまで愛して、彼に結び付き、彼をからだのかしらとして尊ばなければなりません——啓 2:4. コロサイ 2:19. 1:18. I ペテロ 1:8. 2:7。
- D. キリストを最高に享受し、得るために、わたしたちは主の現在の回復のために、わたしたちの献身を主に対して新鮮で、最新に保たなければなりません——詩 43:4. 73:25. 110:3. 創 12:8. II コリント 5:14-15. ローマ 14:7-9。
- E. キリストを最高に享受し、得るために、わたしたちはキリストにあって全く無力であるという態度を持たなければなりません——II コリント 13:3-4. 雅 8:5-6. 詩歌

1. わたしたちは、自分がそれを行なうことができないということを見なければなりません。また、わたしたちは自分自身の中で全く何も行なう能力がないことを認識しなければなりません。主は主権をもってわたしたちが「一つの事」において失敗することを許され、わたしたちがそれを行なうことができず、自分自身をあまりにも高く評価していたことをわたしたちに証明します——ルカ 18:22, 27. 詩歌 578。
2. 一方で、わたしたちは自分の弱さを誇ります。他方で、わたしたちはキリスト・イエスの中で誇ります——Ⅱコリント 12:7-10. ピリピ 3:3。
3. キリストを離れては、わたしたちは何もすることができません。しかし、わたしたちは、力づけてくださる方としてのキリストの中でいっさいの事柄を行なうことができます——ヨハネ 15:5. ピリピ 4:13。
4. 恵みとは、神が訪れて人の中にとどまり、人の中で生まれ、人と一になることです。召会の義務は、おもにキリストのために何かを行なうことではなく、彼女の夫としての彼に開くことです。それは、彼女が絶えず恵みの上にさらに恵みとして彼を受け入れるためです——ルカ 1:28, 30, 35-38. ヨハネ 1:16. 参照啓 12:5。
5. 恵みとは、神の臨在がわたしたちの中に入って来て、わたしたちの命の供給、わたしたちの力、わたしたちのすべてとなることです。それは、わたしたちがキリストをわたしたちの主観的な義として生かし出し、表現するためです。わたしたちが神に対して、互いに対して、自分自身に対して正しくなることができるのは、恵みの力、恵みの強さ、恵みの命によります——創 6:8. ローマ 5:17, 21. 参照、Ⅱコリント 3:3, 8-9。
6. あらゆる恵みの神は、すべてに十分な神であり（ヘブル語、「エル・シャダイ」）、彼の信じた人たちが彼の臨在の中を歩き、絶えず彼と彼のすべてに十分な供給を享受するためです。それは、神が彼らの保護のための要素と要因として彼らに加えられるためです——Ⅰペテロ 5:10. 創 17:1. ピリピ 1:19-21 前半：
 - a. 神聖な称号である「エル・シャダイ」は、二つのヘブル語の言葉から成っています。「エル」は「大能の方」を意味し、「シャダイ」は「胸」あるいは「乳房」を意味するヘブル語から来ています。
 - b. こういうわけで、神は乳房を持つ大能の神、すべてに十分な大能の方であって、彼の召された人たちを養う方、力を与える方、満ちあふれて供給する方です。彼らは絶えず彼を受け入れます——ガラテヤ 3:2, 5. ヨハネ 1:16。
 - c. すべてに十分な神は十字架の神であって、肉の中のわたしたちの天然の人を終結させるためであり、復活の神であって、新創造のためのわたしたちの新しい人の発芽のためです——ピリピ 1:19. コロサイ 2:11. ガラテヤ 5:24. Ⅰペテロ 1:3. Ⅱコリント 5:17. ピリピ 3:3。
- F. キリストを最高に享受し、得るために、わたしたちは、彼をわたしたちの霊の中の勝利者として享受し、わたしたちの兄弟たちの訴えに打ち勝たなければなりません。それは、小羊の血と、わたしたちの証しの言と、死に至るまでもわたしたちの魂の命を愛さないことのゆえにです——啓 3:21. 12:10-11. 2:10-11. 参照、マラキ 5:7-8,

18-20。

II. わたしたちは真の一の立場の上で、召会生活の中でキリストを恵みとして享受します。

それは、ヘルモンの露がシオンの山の上を下ることによって予表されています——詩 133 :

A. 露は、下り、新鮮にし、潤し、浸透する恵みの命 (I ペテロ 3:7)、わたしたちの享受のためのわたしたちの命の供給である三一の神を表徴します(II コリント 13:14. 参照、哀 3:22-24) :

1. 予表において、露は天、すなわち、宇宙における最も高い所を表徴します——参照、エペソ 1:3. マタイ 17:1-2。
2. シオンの山々は諸地方召会を予表します。一つのシオン、一つのからだである一つの召会がありますが、多くの山、すなわち、多くの地方召会があります——啓 1:11。
3. わたしたちがシオンの山で受け取る恵みによって、わたしたちはこの世の人々が生きることができない生活を生きることが出来ます——使徒 20:32. II コリント 1:12. 12:7-9。
 - a. 召会生活の中で、信徒はみな大いなる恵みを受け取ることが出来ます——使徒 4:33。
 - b. そのような有機的な召会生活の中で、信徒によって受け取られた恵みは目に見えます—— 11:23。

B. その霊の油塗りと恵みの供給は、わたしたちが一の中で生きることができるようになります——詩 133:2-3. エペソ 4:3. 参照、詩 110:3。

III. わたしたちが、からだの生活の中でキリストを恵みとして享受するのは、彼を測りなわの神として知り、恵みの支配の下にいることによってです。——II コリント 10:13-14. ローマ 5:21 :

A. 神はからだの中のすべての肢体を彼の欲するままに置かれました——I コリント 12:18:

1. かしらは、からだの中にある特別な立場にわたしたちを置き、わたしたちの特別な機能へと向かわせます——ローマ 12:4. I コリント 12:15-17。
2. わたしたちそれぞれの肢体には、キリストのからだの中にある自分自身の立場があります。それは神によって割り当てられたものであり、わたしたちによって受け入れられるべきです。
3. そのような割り当ては神のみこころにしたがっているもので、すべての肢体は必要なのです—— 19-22 節。
4. すべての肢体には一定の立場、一定の割り当て、特定の分があります。彼らもそれらをもってキリストのからだに仕えます。
5. それぞれの肢体には自分自身の特徴があり、それぞれには自分自身の能力があります。これらの特徴は、それぞれの肢体の立場、身分、務めを構成します——ローマ 12:4-8。

B. からだの成長と発展のための基本的な要求は、わたしたちが自分の度量を識別して、それを踏み越えないことです——エペソ 4:7, 16 :

1. わたしたちは進んで、自分の度量によって制限されなければなりません——ローマ 12:3, 6。
 2. わたしたちが自分の度量を踏み越えるやいなや、わたしたちはかしの權威を踏み越え、油塗りの下から出てしまいます。
 3. わたしたちが自分の度量を踏み越えるとき、わたしたちはからだの秩序を損ないます。
 4. わたしたちが冷静な思いなしに、自分自身について思うべきことを超えて、思い上がることは、からだの生活の正しい秩序を無にします——3節。
- C. パウロのように、わたしたちは、神がどれほどわたしたちに割り当てられたかにしたがって動き、行動して、神の尺度、また神の測りなわの制限内にとどまるべきです——II コリント 10:13 :
1. わたしたちが主の働き、経験、享受についての証しを与えるとき、わたしたちは度量、すなわち、一定の制限内で証ししなければなりません。
 2. わたしたちは働きが広がることを期待するにもかかわらず、わたしたちはどのようにして神の制限の下にいるかを学ばなければなりません。わたしたちは度量を超えた広がりを目指すべきではありません——13-15節 :
 - a. わたしたちがその霊にしたがって広がるなら、常に一定の制限が存在するようになります——参照、2:12-14。
 - b. 内側で、わたしたちには、主がある程度まで働きを広げようとしておられる意識があります。内側で、わたしたちには、ある点を超えて働きを広げようとする平安がありません。
 - c. 外側で主は、環境の中で、ある事柄が働き of 広がりを制限するようにさせましょう。環境はわたしたちに特定の境界線を踏み越えさせません——参照、ローマ 15:24。
 - d. 召会の奉仕において、わたしたちが認識する必要があるのは、神がわたしたちにある度量を割り当てられただけなら、わたしたちは背伸びすべきではありません——12:3-4, 6a。
- IV. 召会の墮落の暗黒時代において、地方召会に与えられた恵みは、信徒たちのためであって、彼らは求めて、主の召しに応じ、彼の勝利者となります——啓 1:4 :
- V. 新約の時代にわたって、信徒たちに分与された主イエスの恵みは、神の大いなる喜びの究極的な完成である新エルサレムを究極的に完成し、彼ご自身と人とを結合し、ミングリングして、彼の拡大、永遠の表現とならせます——22:21 :